

第5期 第6回自治基本条例推進委員会 検討部会 会議録（概要）

名称	第5期 第6回自治基本条例推進委員会 検討部会 会議録
開催日時	令和2年8月19日（水） 午後5時30分～午後7時30分
開催場所	阪南市役所 別棟2階 第3・4会議室
出席者	【検討部会委員】 壬生部会長、福岡委員、田中委員、猪俣委員 今井委員、大和田委員 6人出席 【市】 地域まちづくり支援課 戸崎課長、岩下総括主事、枇榔主事
傍聴人数	0人
議題	全体の振り返り 事例について
資料	○資料1 検討の全体の振り返り ○参考資料1 検討のまとめ ○事例について（摂津市、新潟市）
要旨	全体の振り返り 事例について
会議	あいさつ 部会長 推進委員会で指摘いただいた部分も含め、一通りの議論を終えたところ。これまで各パートごとに議論を進めてきたこともあるため、ここで全体の振り返りを行っていきたい。全体を通して確認すると、新たな気づきや提案もあるかもしれないため、闊達な意見を願います。 【全体の振り返り】 事務局 資料1に基づき、全体の振り返りについて、説明。 （全体の振り返りについて委員からの意見、質疑・応答） 部会長 今事務局から説明のあった内容について、改めて全体を通して振り返った時に、気づいたことや文言の修正、追記等意見を頂ければ。 委員 文言のところ、1頁の下から二つ目「指針を改訂」ではなく「指針の改訂」。次に2頁の部分で和暦が平成と令和が混ざっているが、期間がどの程度経過しているかが読み取りにくいので、他の委員の意見も伺わないといけませんが、西暦も表記すれば良いのでは。 委員 6頁の部分で、市民や自治会などの下にある説明文の始まりを、少し内側にずらした方が見やすいと思われる。 部会長 最初に提案頂いた年度の部分については、どのように取り扱うか。 委員 市役所では、このように年度が含まれた文が多くあると思うが、何か取り決めのようなものはあるか。 事務局 市役所では、原則和暦を使用し、和暦だけでは読み取りにくい場合、後ろに西暦を入れ補足している。 委員 和暦が入っているのは、1頁と2頁ぐらいなので、西暦を表記してはどうか。 部会長 それでは、和暦の後ろに西暦の表記を追記することとする。これまでの議論でも分かりやすく読みやすい指針を目指してきているため、少しでも分かりにくい部分は修正をしていければ。 委員 2頁の阪南市の現状に「保険料」と記載があるが、保険料は被保険者が掛ける保険料になるため、行政の歳出になると、「保険給付費」という表記が正確かと思う。 6頁のところ、上から市民、自治会、NPOときて次に学校が入り、市民公益活動団体となっている。市民主体でまとめると、学校と市民公益活動団体の順番を入れ替えた方が見やすいのでは。 また、同じ頁のリード文の中に「担い手等」とあるが、ここは担い手の事について記載をしているため、「等」は不要では。 事務局 見出しが「担い手・パートナー」となっているため、同じ文言で記載を行うと少し読みにくいと思い、「等」という表現にしているため、「担い手」だけの表現でも問題ない。 委員 下に記載のある担い手以外にも、他の担い手がいるという意味で「等」が記載されていると思っていた。

部会長	担い手とパートナーをどのように表記していくのか再度確認が必要。担い手の方が捉える範囲が広いので、パートナーも担い手に含まれる。パートナーを記載するのであれば、どのように違うか整理が必要。パートナーの説明を追記するとなれば、この見出しの中で行う事となると思われる。
事務局	リード文の下にパートナーについて追記を行っていくように修正する。
委員	ネガティブやポジティブなど、多くの人は普段から使用しているため意味が理解できると思うが、高齢になると普段から使わない言葉は、うまく意味が伝わらないかもしれない。
事務局	ネガティブは消極的という意味を持ち、反対にポジティブは積極的という意味になる。ご指摘のとおり英語よりも日本語表記の方が、正確に意味が伝わるため、修正する。
委員	12頁、13頁の表の部分について、じっくり見ると意味がわかるが、パッと見たときに理解しにくいと思われる。 また、領域や割合などの言葉が急に出てきていることも、要因かもしれない。
委員	表の上に、網掛けはこのような意味というような、少し説明を追記すればどうか。
部会長	表の見方もそうだが、このような図表は説明文とセットで表記したほうが良い。パターン①と図表の間に、この図表をどのように読むかという事をくどいかもしいかもしれないが、文章を追記したほうが良いかもしれない。
事務局	表について説明をする文章が無いので、表が読み取りにくいという意見を頂いた。この間に、表の説明文を追記していくこととする。
委員	パターン①に市民が「参画」とあるが、他の表は「支援」となっている。「支援」に統一しても意味は変わらないので、統一しては。
部会長	ご指摘のとおり、支援に統一することとする。
委員	協働の手法の中で、委託だけが例示の表記が無いので、記載してはどうか。
部会長	市民と行政の協働で考えたとき、委託は市民が支援の部類に入るとされるため、追記することとする。
事務局	各パターンの中で、先に示している6つの手法以外の例を記載しているが、この部分についても、6つの手法以外にその他の手法の例として記載したほうが良いか。
委員	近い項目として、「補助金・助成金の交付等」は資金的支援だが、加えて、備品の貸出や講師の派遣などは、物的・人的支援という表記での追記は考えられる。
部会長	このパターンにおいて説明するのが、6つの手法だけであれば、それ以外の語句は除くというのも1つだと思う。しかし、語句を除くとイメージが湧きにくくなるかもしれない。もし説明文を具体的に追記するとすれば、上記6つで挙げた協働の種類他に具体的な例としてこのような支援が考えられるという表記になるのでは。
部会長	少し話が変わるが、11頁のリード文のところ、前半部分と後半部分を区切ったほうが、見やすく、次に、行政等ができることの部分で、職場からではなく地域に変えたほうが良い。また、単一ではなくという表記は削除したほうが、見やすいと思われる。 これは、私から各委員の意見を伺いたいが、第3章のタイトルが「目指すべき理想」となっているが、本文中ではあまり理想の内容が出てきていないため、第3章のタイトルを本文と合うようなタイトルに変更できればと思うが、どうか。
委員	「理想」を「協働」に変更すればどうか。
部会長	本文との整合性も図れていると思うため、協働に変更することとする。
委員	表の網掛けが無い方がすっきりするのでは。網掛けがあるため、ややこしい。
委員	「パターン①」と記載の部分は、もう少し大きく、太くすると見やすくなるのでは。
部会長	1つの表の情報量が多すぎると逆に見にくくなってしまいうため、もう一度検討し、もう少しすっきりとした形にしていくこととする。 もう一つ各委員に確認を行いたいが、今まちづくりや協働、参画という指針を作ろうとしている中で、コロナの話のどのよう記載していくか。新しい生活様式などと言われる中で、そのようなことが、まちづくりや協働にどのように影響を与えるのか考えていかないとけない。 特にこの指針に関しては、第1章から順番に議論を行ってきたこともあり、新しい状況についてまったく情報が入っていない。記載していくなら指針の前段の方にしか記載できないと思われる。この辺りについてはどうか。
委員	今はコロナだが、この先違うものも流行ってくるという可能性もある。

部会長 協働の指針と考えたときに、必ずしも記載する必要が無いように思えるが、状況が変わっていく中でいろいろな悩みながら取り組んでいかなければならいことも考えると、逃げられないようなこととも思える。
おそらく、実際に活動されている市民公益活動団体等の皆さんの中でも去年から変わった事、自治会でもそうだと思うが、そのような所を第2章に記載しても良いのではないかとも思う。

委員 計画を立てても、活動自体ができていない実情がある。感染予防対策のため3密を避けて出来ることから少しずつ取り組んでいる。

委員 指針の期間が5年という事も踏まえると、コロナについていつ収束するか分からないというものの、4年後5年後まで避けましようということを指針に記載していくのは書き過ぎなのかもしれない。外的な要因や自然災害もそうだが、そのような時は市民活動の力が本当に必要だという切り口で、災害やコロナに対しても工夫しながら協働して取り組んでいきたいと思いますというような触れ方がよいのでは。

部会長 新しい活動の仕方を考えていかなければならないと思われる。この先5年で答えが出るとは思えないが、これからに向けて考えていく必要もある。

事務局 先ほどからの委員のご意見を踏まえ、コロナに限らず災害の視点も含めた、協働の取り扱いの部分や、新しい活動の仕方であったり、みんなで知恵を出し合い乗り越えていくという部分を追記していくこととする。

部会長 全体の振り返りについては、以上で良いか。もし、誤字脱字等も含め気づいたことがあれば事務局まで連絡をお願いします。

【事例について】

事務局 事例について、摂津市及び新潟市の事例を参考に説明。
(委員からの意見、質疑・応答)

部会長 阪南市においても同様な取り組みもあると思われるため、その事例を集め阪南市版の事例集を作っていきたいという事務局の説明であった。各員の活動の中で意見等あれば。

委員 自身が関わっている中では、マスターズカフェがある。これは、認知症の方と市と地域包括支援センター、そしてこの事業をサポートする様々な団体が連携して行われている。加えて、福祉作業所の手作りクッキーなどもお茶菓子として販売している。
また、自治会では、随分前に見守りの腕章をつけて散歩をしようという取り組みもあった。

委員 コロナが流行する前は、地区でも20人程度の高齢者が集まり、登下校に併せて散歩をしていた。

委員 協働の事例でいうと、舞地区のあたごプラザは幼稚園跡地を市民が運営するという公設民営の形式で素晴らしい事例だと思う。趣味や生きがいを通じた社会教育や、福祉活動など様々な活動が行われている。

委員 現状と課題にも記載があったが、市役所の庁内推進委員は研修として市内の活動団体のところに現場視察に行かれていると思うが、職員がどのように感じているのかなどを、活動者が知ることで新たな気づきややる気に繋がる部分もあると思うが、そのようなことは行っているか。

事務局 ご指摘のとおり、庁内推進委員は市内約10箇所の現場視察に何わせていただっており、振り返り研修を経てアンケートを行い、そのアンケート結果を現場視察を受け入れて頂いた団体にお渡ししている。昨年度については、コロナ禍のため振り返り研修を中止としている。

委員 他市では、振り返り研修の際に受け入れて頂いた団体の方々に参加いただき、職員の感想を聞く形をとっていたような記憶がある。

事務局 本市においては、振り返り研修の際は、受け入れて頂いた団体以外の活動団体をゲストスピーカーとして招き、視察受け入れ団体以外にも市内には数多くの団体がおられるという認識を職員に持たすようにしている。

部会長 各委員から阪南市内にて行われている活動について意見を頂いたところ、これらの意見を参考に事例集の作成を進めてもらえれば。

委員 市民活動センターにおいて、いくつか事例を把握しているため、随時事務局と共有させてもらおう。

【その他について】

事務局 その他について、推進委員会へ向けての資料の確認について説明。
(委員からの意見、質疑・応答)

部会長 ただいま、事務局から説明のありましたことについて、何かご意見があれば。
なし

部会長 それでは本日予定しておりました、案件はすべて終了いたしました。長時間に渡りありがとうございました。